

千葉県建築文化賞

第23回表彰作品集



2016年

主催：千葉県 共催：一般社団法人 千葉県建築士会

千葉県建築文化賞について



千葉県知事 森田 健作

平成28年度の千葉県建築文化賞に多くの皆様から御応募をいただき、誠にありがとうございました。

千葉県建築文化賞は、建築文化や居住環境に対する県民の意識の高揚と、うるおいとやすらぎに満ちた快適なまちづくりを推進することを目的に平成6年度に創設されました。

第23回目となる今年度は、98点の応募をいただき、千葉県建築文化賞検討会議による検討内容を踏まえ、優秀賞6点及び入賞3点の合計9点を選定いたしました。

受賞作品は、安全や快適性、景観、環境に配慮するなど、本県の建築文化の向上につながるもので、千葉の魅力を高め、地域の活性化に貢献する素晴らしい作品ばかりです。これらの建築物が、地域社会の中で親しまれ、より良いまちづくりの推進に寄与していくことを心から期待しています。

今後とも県では、皆様と共に、千葉の未来を担う子どもたちが「千葉で生まれて、住んで、働けて良かった」と誇りに思えるような魅力あふれる「日本一の光輝く千葉県」を築いていけるよう、全力で取り組んでまいりますので、御理解と御協力をお願いいたします。

結びに、受賞者並びに応募いただいた皆様のますますの御活躍をお祈り申し上げまして、あいさつといたします。

平成29年3月

1

目次

千葉県建築文化賞について	1	鋸南町都市交流施設・道の駅 保田小学校	9
第23回千葉県建築文化賞選考経過と総評	2	暁星国際流山小学校	9
新柏クリニック	3	いつも日なた、いつも日かげの家	10
常磐神社	4	選考の基準	10
キッコーマンアリーナ(流山市民総合体育館)	5	千葉県建築文化賞検討会議	10
海と大地の家 ジオグラフィックハウス	6	千葉県建築文化賞の実績 (応募点数・受賞作品数)一覧	
松戸の家	7	受賞作品の位置	
上総喜望の郷 おむかいさん	8		

第23回千葉県建築文化賞選考経過と総評

応募98点から9点授賞

(選考経過)

千葉県建築文化賞検討会議委員長 北原 理雄

第23回千葉県建築文化賞は平成28年6月の検討会議で募集要領を定め、7月中旬から9月下旬まで応募を受け付け、前回は大きく上回る総数98点の応募をいただいた。(部門別内訳は下表のとおり。)

第1次選考はすべての応募用紙を一堂に展示し、その記載と写真をもとに投票を行い、一般建築物8点、住宅5点を選んだ。次いで11月の3日間をかけ、現地を訪問し、建築物の説明を伺いながら詳細に調査した。第2次選考は12月開催の検討会議で、現地調査の報告を踏まえて再度投票を行い、討議を重ねながら優秀な建築物を選んだ。

なお、今回も選考の公明性を保つため、委員と関係のある建築物が応募している場合は、そのことを確認したうえで、当該委員は討議に参加せず、票を投じないこととした。

その結果、優秀賞6点、入賞3点を表彰候補作品として決定した。

多くのすぐれた作品を応募していただいた皆さまの熱意に、この場を借りて深謝したい。今回は残念ながら最優秀賞の該当なしという結果になったが、全体にレベルの高い作品が多く、嬉しい意味で選考の難しい年になった。また、高度な伝統技法を駆使した建築物や特異な立地の住宅など、レアケースの評価をめぐる意見が交わされたのも今回の選考の特徴であった。

募集部門	選考過程	応募点数	現地調査 (第1次選考)	受賞作品選定(第2次選考)		
				最優秀賞	優秀賞	入賞
一般建築物		52	8	0	3	2
住宅		46	5	0	3	1
合計		98	13	0	6	3

(総評)

一般建築物の部

一般建築物の部への応募は52点で、公共施設、学校関連施設に佳作が多かったが、それ以外に店舗、病院・診療所、こども園など、今回も多彩な作品が寄せられた。

優秀賞の「新柏クリニック」は、緑が残る台地に建つ120床の透析診療所である。透析室は、耐火集成材の門型フレームが連続する一室空間となっており、温かみのある柱・梁・天井とガラスの開口から流れ込む光が、長時間の診療を受ける患者に心休まる環境を提供している。外観も、大きな水平の庇とガラス面によって構成されるファサードが明るく端正な表情を醸し出している。

「常磐神社」は、日本武尊と徳川家康・秀忠を祀る神社であり、船橋大神宮の境内に立地している。従来の社の老朽化に伴い新築された社殿と唐門は、漆塗りで極彩色をほどこした華やかなものである。全国から集まった宮大工、漆職人、鋳金物職人たちの技術を結集した工芸品のような建築物は、建築文化の継承という面でも評価された。

「キッコーマンアリーナ(流山市民総合体育館)」は、運動公園内に立地する総合体育館であり、大規模な建築物をメインアリーナ、サブアリーナ、武道場の3つのマッスに分節し、公園の既存樹木と馴染ませている。また、メインアリーナの大屋根施工に際して、トラス鉄骨屋根のスライド工法を採用し、既存樹木や環境の保全をはかっている。

入賞の「鋸南町都市交流施設・道の駅 保田小学校」は、廃校となった小学校を道の駅として再生したものであり、校舎や備品を活用しながら、長く親しまれてきた地域の核に新しい生命を吹き込んでいる。「暁星国際流山小学校」は、新しい都市型駅前小学校をコンセプトにしており、小規模学校の利点を活かし、教育プログラムを明快に反映した端正な建築を実現している。

住宅の部

住宅の部の応募は46点であり、多様なライフスタイルを反映した住宅に加えて、福祉施設にも興味深い作品が見られた。

優秀賞の「海と大地の家 ジオグラフィックハウス」は、犬吠埼と君ヶ浜を望む岬に建つ住宅である。一帯はジオパークに指定されており、住宅は自然環境との融合を目指し、曲線を描いて低く斜面に寄り添っている。居室からの眺望は雄大だが、浜から見上げると、肌色がかかった建物が岬の岩と植生に溶け込んでいる。また、敷地境界に柵を設けず、大屋根に土を載せて既存植物を植え直すなど、随所に配慮が見られる。

「松戸の家」は、池を中心にした日本庭園と一体になった数寄屋風の住宅である。池に面して濡れ縁をめぐるし和室と縁廊下を持つリビングを配し、雁行した建物に重なりあう屋根を掛け、屋内からの眺めと併せて、回遊式の庭からの眺めにも入念に配慮している。用材の調達から施工まで一貫した目配りのもとで、伝統的技法が融合的に活用されている。

「上総喜望の郷 おむかいさん」は、知的障がい者のための住まいである。建物は小規模小舎制をとり、6人の個室とリビング、ダイニング、キッチン、浴室などを備えた住まいが3棟、バックアップ棟と共用棟をあだに挟み、中庭を取り巻いて配置されている。傘型屋根を組み合わせた各棟はリズムミカルに分節され、それぞれのグループに落ち着いた居場所を提供している。

入賞の「いつも日なた、いつも日かげの家」は、ワンルーム的な平屋の住宅であり、深い庇によって季節に合わせて必要な日照が得られる快適な室内をつくり出している。